

教育



- ・ 令和6年度入学式・ウェルカムセレモニーを挙行
- ・ 岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC) 第88回医学教育セミナーとワークショップを開催
- ・ 第15回教養講演会（NHK大学セミナー）を開催
- ・ 令和6年度宇宙工学講座開講式を開催
- ・ 教育推進・学生支援機構の清島絵利子准教授が第1回教育グッドプラクティス機構長特別表彰を受賞
- ・ 岐阜県高等学校長代表者との懇談会を開催
- ・ 令和6年度秋季岐阜大学流域水環境リーダー育成プログラム修了証書授与式を挙行
- ・ 第89回医学教育セミナーとワークショップを開催
- ・ 「ISO14001内部環境監査員養成研修」修了証書授与式を挙行
- ・ 「茂木健一郎先生と考える脳とAIのアライメント」を開催
- ・ 高大連携実衛星プログラム「ぎふハイスクールサット（GHS）」のフライトモデルの引き渡し完了
- ・ 第90回医学教育セミナーとワークショップを開催
- ・ 令和6年度岐阜大学シンポジウム「ポジティブな学校文化をつくるエビデンスの活用」を開催
- ・ 「地域医療セミナーin下呂」を開催
- ・ 岐阜大学教育学部と三重大学教育学部が連携・協力に関する協定を締結
- ・ 令和6年度学位記授与式を執行

令和6年度入学式・ウェルカムセレモニーを挙行

【概要】

本学は、令和6年4月7日（日）に、長良川国際会議場にて令和6年度入学式を挙行了しました。今年度は、学部学生1,327名、大学院学生668名が本学へ入学し、新たな一歩を踏み出しました。

式典では、入学生に向けて吉田和弘学長が紹介した「福沢諭吉先生の「異端と先導」という言葉は、その時代では一見「異端」と思えることこそが、次の時代を先導することができるという教えです。自身の専門である消化器外科領域でも、今では腹腔鏡手術やロボット支援手術が主流になっていますが、これらは福沢先生が100年以上前に予見していたものです。入学生のみなさんも現代の「異端児」となって、次の時代の「先導者」として育ってください」と告辞を述べました。

入学生代表宣誓では、学部学生を代表して地域科学部の 安西心桜さんが「私たちは岐阜大学の学生として、その本文である学業や研究に専念し、輝かしい未来に向かって、日々努力することを誓います」と宣誓しました。

また、式典後には、学部学生を歓迎するウェルカムセレモニーを初めて開催しました。本学卒業生であり、元パイロットインキ株式会社社長の 中筋憲一氏が講演を行い、「研究や開発においてはひらめきや感性が伴って新しいものを生み出すことができます。学生時代から物事を簡単に諦めずにやり抜く気概が何より大切に思います」と応援メッセージを送りました。その後、学生団体による活動紹介を行い、盛況のうちにセレモニーを終えました。

岐阜大学は、入学生の新たなスタートを祝福するとともに、学生たちが活躍する未来へ向けて精一杯その支援をしてまいります。



入学式の様子

令和6年度入学式・ウェルカムセレモニーを挙



告辞を述べる吉田学長



学部学生を代表して宣誓する地域科学部の安西さん



ウェルカムセレモニーで講演を行う中筋氏



学生団体による活動紹介の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/4/8	中日	「未来へ日々努力」誓う 岐阜大入学式 新入生、新たな一歩 ～吉田和弘 学長、新入生代表 地域科学部 安在心桜さん～
2024/4/8	岐阜	学業や研究「日々努力」 岐阜大・大学院が入学式 ～吉田和弘 学長、新入生代表 地域科学部 安在心桜さん～

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC) 第88回医学教育セミナーとワークショップを開催

【概要】

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)は、5月22日(水)～24日(金)の3日間にわたり、第88回医学教育セミナーとワークショップを開催しました。また、第25回国公私立大学医学部・歯学部教務事務職員研修とあわせて開催し、延べ185名が参加しました。

今回は4つのワークショップとウェビナーを実施しました。ワークショップの一つ「学生の社会情動的スキルを育むアプローチを考える」は、4年ぶりに岐阜大学にて対面開催し、非認知能力とその教育に関する話題について、全国医療機関のさまざまな医療職で卒前卒後教育に関わる方々と議論する機会となりました。はじめに、非認知能力の基本的な捉え方に関して講義があり、非認知能力の定義、よく利用されるフレームワーク、発達段階との関係性について共有し意見交換を行いました。また、ワールドカフェ方式で、非認知能力に大きく影響を受けているような困った学習者や教育者事例を扱うテーブルを設け、活発な議論が行われました。その後、今後の医療者教育の中で実践できそうな工夫について共有し、発表を行いました。参加者からは「ワールドカフェならではの多彩な工夫やコツを共有することができ有意義だった」と好評を博しました。

また、ワークショップ「学習ポートフォリオ評価：基本と現状」では、国公私立大学医学部・歯学部教務事務職員研修の共同企画として実施しました。岡山大学病院の猪田宏美先生と東京医科大学の油川ひとみ先生がポートフォリオの実践例について紹介しました。教員と事務職員が共通のテーマでディスカッションする貴重な機会となりました。

さらに、Webinar企画として「非認知能力から見た医療系教育への示唆」を実施しました。早稲田大学の小塩真司先生を講師に迎え、近年注目を集めている「非認知能力」をテーマとし、感情制御や好奇心、動機づけなど広く非認知能力に関連する心の働きについて理解を深め、教育活動の中で何らかの形で活かしていくためのヒントについて議論しました。特に医学部は認知能力を重要視してきた背景を踏まえ、非認知能力が医療者教育に導入されることは、大きなインパクトを与える可能性があることを示唆しました。今後一層の非認知能力を育む教育実践が開発・研究されることが期待されます。



早稲田大学小塩真司教授による
オンラインウェビナーの様子



ウェビナーでのディスカッションの様子
早稲田大学小塩真司教授(上)、
MEDCセンター長 西城卓也教授(中)、
MEDC 川上ちひろ准教授(下)

第15回教養講演会（NHK大学セミナー）を開催

【概要】

令和6年6月24日（月）に、岐阜大学教育推進・学生支援機構基盤教育センターとNHK岐阜放送局の共催により、第15回教養講演会を開催しました。今回の教養講演会は、2003年度からNHK（日本放送協会）が実施している、番組制作者や出演者を各大学に講師として派遣し、講演を行う「NHK大学セミナー」の一環として催されました。対面・オンラインの併用で行われた今回の講演会には、学生・教職員ら167名が参加しました。

開催にあたっては、NHK岐阜放送局の全面的な協力のもと、NHKエンタープライズ（NEP）エグゼクティブ・プロデューサー堅達京子氏をお迎えし、「持続可能な社会を目指すには－将来のエネルギー供給体制、世界規模の環境問題・気候変動について考える－」というテーマで講演が行われました。

堅達氏は、NHK在籍時から長年環境問題に取り組み、気候変動問題を中心とした多くのテーマ番組を制作されてきたプロデューサーです。講演では、近年プロデュースされたNHKスペシャル「2030 未来への分岐点」、NHK・民放6局連動の環境特番「1.5℃の約束 いますぐ動こう、気温上昇を止めるために」などを踏まえ、世界規模で発生している温暖化の現状、またそれによって引き起こされる危機について話されました。

近年、地球全体の平均気温の上昇により、海面上昇や大雨による洪水などが発生し、他方で別の地域では干ばつが起こるなど、地球環境の大きな変動が起こっています。今後、仮に平均気温が2.0℃以上上昇した場合の試算では、こうした事象がより大規模に、より頻繁に起こるだろうとされています。しかし、これを1.5℃に抑えることで、この変動を最低限にとどめることが可能になります。また、気候変動については後戻りすることができない転換点(Tipping Point)が存在し、一度この分岐点を超えてしまえばもはや地球はそれ以前の状態に回帰することができません。現在、この気候変動はそのラインに迫っており、堅達氏は、この10年に行う私たちの選択や対策が、今後数千年の地球環境、ひいては人類の幸福に影響するということを、強く訴えられました。そして、こうした危機的な状況の回避には、私たちの一人一人が自分自身に何ができるかを考え、実行し、さらに呼びかけていくことが重要である、という認識も示されました。

また、堅達氏は、地球の温暖化が驚異的な速さで進んでいるということを映像や図などを用いて学生にもわかりやすく解説しました。そのインパクトは非常に大きく、学生はもちろん、一般参加者や教職員にとっても、今後自分たちがどう行動していくべきか、次世代へどのように繋げていくかを深く考える機会となりました。

講演後の学生からの意見や感想には、「環境問題はなんとなく聞いてはいたがこれほどまでに危機的な状況であるという認識がなく、今後の我々自身が行動していかなければならないということがよく分かった」、「先進国が化石燃料の恩恵を受け、途上国は貧しくその恩恵を受けていないにもかかわらず水面上昇や異常気象による大洪水などで多くの犠牲をこうむっているなどの公平性が大きな問題である。日本も先進国として責任を果たさなければいけない」、「私たちのような若い世代でも諦めないで訴え続け、まずは行動することが大事だと思った」といった内容があり、堅達氏の講演内容がしっかりと学生に伝わっていました。

第15回教養講演会（NHK大学セミナー）を開催

【概要】

今回、講師としてお招きした堅達氏の知識の深さ・経験の広さに裏打ちされたお話をうかがうことができ、また多くの未来ある学生に地球規模の問題について真摯に考えてもらう機会となり、たいへん有意義な講演会となりました。今後も岐阜大学は、こうした講演会などを通じて、学生や地域社会の皆様と共に地球環境の保全と持続可能な社会の構築に向けた取り組みを進めてまいります。

また、講演会に先立ち、学長室にて堅達氏との懇談が行われました。懇談では、地球環境問題の現状と岐阜大学が取り組むべき課題について意見交換がなされました。堅達氏からは、最新の気候変動対策の動向や、教育機関が果たすべき役割についての貴重な示唆をいただき、今後の連携と協力の可能性についても話し合われました。



講演される堅達氏



学長室での懇談の様子



記念写真（左から）

益子副学長、瀬瀬教授、堅達氏、吉田学長、
日高NHK岐阜放送局経営管理企画センター専任部長



講演会の様子



質疑応答の様子

令和6年度宇宙工学講座開講式を開催

【概要】

本学地域協学センターと高等研究院航空宇宙生産技術開発センターは、6月23日（日）に令和6年度宇宙工学講座開講式を岐阜かかみがはら航空宇宙博物館で開催しました。本講座は宇宙工学に関する基礎知識を習得し、今後の人工衛星・ロケット・航空産業で活躍する人材育成を、学校を超えた仲間で行う事を目的に開催したもので、岐阜県内の高校生及び高専生らが出席しました（受講者数：18校86名）。

宇宙工学講座は、ぎふ宇宙研究会の活動として、また岐阜大学の高大連携事業の一環として、各務原市、岐阜県教育委員会、公益財団法人岐阜かかみがはら航空宇宙博物館、独立行政法人国立高等専門学校機構 岐阜工業高等専門学校、一般社団法人岐阜県工業会、中日本航空専門学校、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）、Planet Science（France）の共催・後援・協力の下、実施しています。受講生は、岐阜大学教員、JAXA等の講師による最先端の宇宙工学に関する教育をオンラインで受講することができ、10月にはJAXA見学ツアーも予定されています。

開講式では吉田和弘学長からの挨拶にはじまり、関係機関からのビデオメッセージの放映、宇宙甲子園缶サット部門の全国大会報告、ぎふハイスクールサットの活動報告などが行われました。また、JAXA 宇宙科学研究所（ISAS）の川勝康弘教授より「火星衛星探査計画MMX：世界初の火星衛星サンプルリターン」という題目で講演していただき、参加した生徒からは最新の宇宙探査について知ることができ、宇宙工学に対する興味が高まりましたといった声も聞かれ、好評を博しました。

今後、本講座では、12月21日（土）の開講式までに全9回の講義が予定されています。



缶サット甲子園／ぎふハイスクールサット活動報告



JAXA川勝康弘教授による特別講演



記念写真

教育推進・学生支援機構の清島絵利子准教授が 第1回教育グッドプラクティス機構長特別表彰を受賞

【概要】

岐阜大学教育推進・学生支援機構の清島絵利子准教授が第1回教育グッドプラクティス機構長特別表彰を受賞しました。

この制度は、東海国立大学機構に所属する教員の教育に対するモチベーションを高め、授業の質向上を目指すため令和5年度に創設されました。令和6年7月24日（水）には、第1回教育グッドプラクティス機構長特別表彰式が行われ、模範となる特に優れた効果又は成果があったと認められた授業として、岐阜大学より1科目（全学共通教育科目「社会人リテラシー科目 日本語表現Ⅰ（初級）」）、名古屋大学より2科目が表彰されました。

表彰式場で松尾機構長は、「学ぶことの大切さや面白さを教えてくれる教員に出会うことは、学生にとって一生の宝物になります。今後もさらに研鑽を積み、より良い人材の輩出に繋げてください」と述べました。

8月1日（木）には、清島准教授が吉田学長へ受賞報告を行いました。清島准教授から「本授業は約1,300名の学生がオンデマンドで受講する必修科目です。学生が適切な日本語を使い、レポートや論文、プレゼン資料を作成する力を養うとともに、相手に配慮したコミュニケーション能力を身につけることを目的に開講しています。表彰では、記述式課題の成績評価において、学生同士の相互評価法を用いている点などが高く評価されました。この手法による採点結果と教員が採点した結果の相関は非常に高く、有効な採点法として証明されています」と説明がありました。さらに「今回、この栄誉ある賞を受賞できたのは、私ひとりの力ではなく、これまでに指導して下さった前副学長の山田敏弘教授をはじめ、レポート採点法のシステムを構築された工学部の横田康成教授と、日々支えて下さった皆様のお陰と実感しております。今後もより一層教養教育の発展に邁進して参ります」と抱負を語りました。

吉田学長は「この授業は本学の宝となる科目です。学生が相互評価で他の学生の文章を採点することは、今後の文章作成において非常に勉強になります。今後も、教員皆さんの模範となり頑張ってください」とお祝いの言葉を述べました。

本学は引き続き、学び、究め、貢献する人材の輩出を目指して、教養教育の質保証と専門教育の基盤確立に努めていきます。



松尾機構長から表彰される清島准教授



左から杉山副学長、清島准教授、松尾機構長、
藤巻教育基盤統括本部長

～教育に関連する取組～

教育推進・学生支援機構の清島絵利子准教授が 第1回教育グッドプラクティス機構長特別表彰を受賞



吉田学長への受賞報告の様子



左から杉山副学長、清島准教授、吉田学長、益子副学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/7/27	中日	名大などの3科目 質高い授業で表彰 東海国立大学機構 ～教育推進・学生支援機構 清島絵利子 准教授の日本語表現に関する授業～
2024/8/15	中日	質の高い授業で表彰 岐阜大などの3科目 東海国立大学機構 ～教育推進・学生支援機構 清島絵利子 准教授～

岐阜県高等学校長代表者との懇談会を開催

【概要】

令和6年8月6日（火）、岐阜県高等学校長代表者との懇談会を開催しました。この懇談会は平成18年度から毎年行われており、岐阜県内高等学校と本学の現状と課題について意見交換を行い、相互理解を深めることを目的としています。

今年度は、岐阜県高等学校長協会（以下、「校長協会」という。）の小野会長（県立大垣北高等学校校長）はじめ、18名の校長をお迎えし、本学からは、吉田学長、益子副学長、杉山副学長はじめ、17名の役員・教職員が参加しました。

懇談会では、始めに吉田学長から「東海国立大学機構と岐阜大学の現状と方針」について説明がありました。次に、校長協会の小野会長から「高大連携を踏まえての現状と課題」をテーマに、高等学校の現状と諸課題、そして今後の地域と大学との連携について説明がありました。また、高大連携教育として本学で開設している航空宇宙人材育成講座「宇宙工学講座」を高校時代に受講した本学学生が、講座から学んだことや現在大学で学んでいる内容について報告を行いました。懇談会全体を通じて、校長協会からは、教育現場の現状を踏まえた高大連携や入試改革など本学への期待をはじめ多くの意見・要望が示されました。

懇談会終了後には、岐阜県高等学校長代表者を対象に「OKB 岐阜大学プラザ」の施設見学、概要説明を行いました。また、大学公認サークルの「起業部（ビジネスアイデア創出団体）」による活動報告があり、学生による地域活動の現状や今後の活動計画について質疑を交えながら意見交換が行われ、有意義な機会となりました。

今後も岐阜大学は、県下の高等学校と活発な意見交換を行い、相互理解を深めることで、さらなる連携取組の強化に向けた活動を展開していきます。



吉田学長による説明



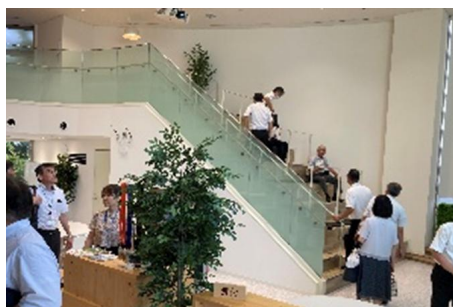
小野会長による説明



本学学生による報告



施設見学（OKB 岐阜大学プラザ）



施設見学（OKB 岐阜大学プラザ）

令和6年度秋季岐阜大学流域水環境リーダー育成 プログラム修了証書授与式を挙行

【概要】

9月13日（金）、学長室において令和6年度秋季岐阜大学流域水環境リーダー育成プログラム修了証書授与式を行いました。今年度は、連合農学研究科博士課程に在籍するインドネシア出身の SHIAMITA KUSUMA DEWIさんがプログラムを修了しました。

このプログラムは、アジア・アフリカ諸国が直面する水質・水資源・生態などの流域水環境に関わる様々な問題を多角的な視野で的確に理解し、戦略的な解決策と発生防止策を設計・施行する環境リーダーを育成することを目的としています。平成21年度にプログラムをスタートして以来、本年度を含め249名の修了生を輩出しており、修了生たちはアジア各国で環境リーダーとして活躍しています。

授与式は、吉田学長、プログラム統括委員会委員である小山グローバル推進機構長、李プログラム推進室長、プログラム推進室教員ら出席のもと、修了証書を授与しました。その後の懇談において、SHIAMITAさんは「母国に帰り、大学の教員となって頑張ります。研究は母国に帰ってからも続けていきます」と今後の抱負を語りました。吉田学長は「これからも研究を続けて、岐阜大学とのつながりを大切にし、岐阜大学に優秀な学生を送り出してください」と激励しました。

岐阜大学は今後も国際社会に貢献できる優秀な人材を育て、持続可能な地球環境の実現に向けた取り組みを推進していきます。



懇談の様子



記念撮影

第89回医学教育セミナーとワークショップを開催

【概要】

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)は、10月26日(土)に第89回医学教育セミナーとワークショップを愛知医科大学と共同開催し8つのワークショップとセミナーを実施し、講師を含む延べ125名が参加しました。

セミナー「医学部におけるアントレプレナーシップ教育」では、スタンフォード大学の池野文昭先生をお迎えし、医療機器ビジネスの起業家精神育成講座であるスタンフォードバイオデザインプログラムを紹介しました。シリコンバレーの中心に位置するスタンフォード大学では、社会のニーズに合った人材を継続的に育成することに重点をおいており、医療機器ビジネスの創出ができる次世代リーダーの育成を行っています。一見すると、民間企業で行う内容のようにも思えますが、世界中の多くの患者を救うことができる医療機器の開発を推進する人材を社会に輩出することで社会に貢献しています。日本の医学部での人材育成の考え方とは異なる新しい実践例を紹介する機会となり、参加者からは「アントレプレナーシップというトピックが新鮮であった、背筋が伸ばされるような講演で刺激になった」と好評を博しました。

さらに、「医療系大学におけるアントレプレナーシップ教育について考えよう」と題したワークショップを実施しました。浜松医科大学における実践例を提示後、医療系大学の各養成課程教育におけるアントレプレナーシップ教育の実現可能性について、参加者同士で意見交換を行いました。

そのほかの7つのワークショップでは、参加者から「普段交流できない多職種の方と交流する機会があり新鮮であった」「講義内容をグループワークで実践できるので、次の日から臨床で導入しやすい」「各大学の意見を聞くことができるので、自身の視野が広がる」などといった意見が寄せられました。

MEDCでは、医学教育共同利用拠点として我が国の医療者教育の普及・開発・向上に寄与すべく、年3回「医学教育セミナーとワークショップ」を開催しています。次回の第90回は1月23日(木)、24(金)にオンラインで開催します。12月2日からMEDCホームページにて参加者を募集予定です。



セミナーの様子（講演者：スタンフォード大学 池野文昭先生）

「ISO14001内部環境監査員養成研修」 修了証書授与式を挙行

【概要】

11月21日（木）に「ISO14001内部環境監査員養成研修」修了証書授与式（オンライン併用）を、吉田学長、杉山副学長（環境対策室長）、統括環境管理責任者の椎名教授（応用生物科学部）ら列席のもと行いました。今年度は岐阜大学と名古屋大学の学生15名に修了証書を授与しました。

本学は平成15年に地域科学部で環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001を認証取得し、その後附属病院を除く全学で認証を取得しています。また、平成23年から毎年、教職員と学生による内部環境監査を行い、環境パフォーマンスの向上に努めています。さらに今年度からは、岐阜大学の学生に加え、連携開設科目※「マネジメント論（マネジメントシステムと監査）」を履修している名古屋大学の学生も参加しました。

内部環境監査は、本学の環境マネジメントシステムがISO14001の規格に沿って運用されているかを学内の監査員が確認するものです。学生は教職員とともに同規格の概要や監査の実施手順について学内外の講師による研修を受けたうえで、実際に内部環境監査に監査員として参加し、学生ならではの視点で監査を行いました。

授与式では、吉田学長から本研修を修了した学生に修了証書を手渡し、「今回の内部環境監査では岐阜大学・名古屋大学の学生から多くの意見が出され、充実した内容の監査となったと思う。内部環境監査を通して気づいたことを、将来のキャリアパスにも活かしてほしい」と激励しました。

その後の意見交換で、学生は「監査を通して、岐阜大学の環境への取り組みを知ることができて良かった」「研修や監査で学んだことを今後日常生活でも活かしていきたい」と話し、積極的に意見を交わしました。

岐阜大学は今後も環境教育と実践の場を提供し、学生たちが地域や社会に貢献できる人材へと成長するための支援を続けていきます。

※連携開設科目：他大学と本学が連携して開設する科目のことです。名古屋大学の学生は、岐阜大学で開講される連携開設科目を受講することができます。



集合写真（名古屋大学の学生はオンライン参加）

「茂木健一郎先生と考える脳とAIのアライメント」を開催

【概要】

2024年11月13日(水)、OKB岐阜大学プラザにて、脳科学者の茂木健一郎先生を講師に迎えた特別講演「脳とAIのアライメント」を開催しました。このイベントは、グローバル推進機構、人工知能研究推進センター、工学部電気電子・情報工学科情報コースの共催で実施し、会場には学生・教職員、企業関係者ら約45名が訪れ、また名古屋大学でのライブ配信を通じて多くの方々がオンライン参加しました。

講演では、まず「知性をどう定義するか」というテーマを取り上げ、人間の目的や価値観を反映するAIの在り方について述べました。特に「Ikigai（生きがい）」という日本文化に根差した概念が講演の中心テーマとなり、人間の生きがいを減らさないようにAIを使用しなければならない「Ikigai risk」という考え方に触れ、AI技術が人間社会の価値観や目的とどのように調和し得るのかなどについて語りました。また、日本独自の文化的背景を活かしたAI研究の方向性についても言及し、国際競争力のある独創的なアプローチの必要性を強調しました。

講演後には、茂木先生が工学部を訪れ、植松美彦工学部長、加藤邦人教授及び寺田和憲教授らとともに、本学のAI分野における教育や研究への協力について意見交換を行いました。

岐阜大学では、今後も学生・教職員や地域企業の皆様の知見を広げるための講演会やイベントを積極的に開催していきます。なお、本講演はGlocal Lessonにて視聴可能です。（ご視聴には無料会員登録が必要です。）



講演の様子



茂木健一郎先生



工学部での集合写真

高大連携実衛星プログラム「ぎふハイスクールサット（GHS）」のフライトモデルの引き渡しが完了

【概要】

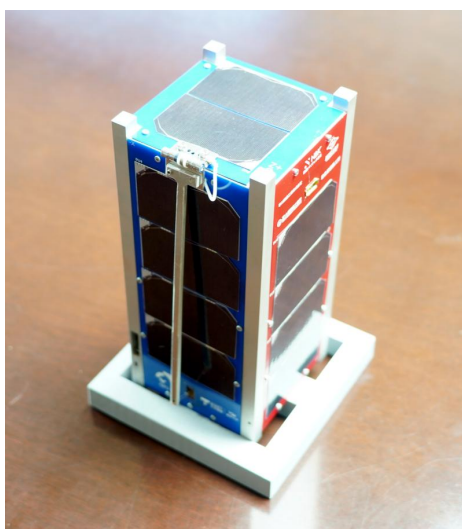
高大連携実衛星プログラム「ぎふハイスクールサット（GHS）」のフライトモデルのJAXA（宇宙航空研究開発機構）への引き渡し完了し、参加した高校生らによる吉田学長への報告が12月23日に行われました。

このプログラムは、岐阜大学と岐阜県が共同で進める「ぎふ宇宙プロジェクト研究会」の一環として実施されているもので、県内の工業高校生と岐阜大学生・大学院生が協力し、フライトモデルの開発を進めてきました。このフライトモデルは、JAXAの安全審査に合格したもので、2025年4月にNASA（アメリカ航空宇宙局）を通じてSpaceX社のファルコン9ロケットで打ち上げられます。国際宇宙ステーションに運ばれたのち、約1か月後に軌道に投入されて地球の撮影や、リトアニア、オーストラリアの高校生との電波受信による軌道推定などの演習を行う予定です。

学長への報告で、GHSチームの生徒達は、「先輩達からこの事業を引き継ぎ、無事に引き渡しまで完了させることができて良かったです。岐阜大学その他、県内の企業や、他の高校の生徒達など、様々な人の力を借りて実現することができました。高校の授業では経験できない取組も多く、非常に勉強になりました」と感想を語りました。

これに対し、学長は、「試行錯誤を重ね、多くの苦労があったことと思いますが、高大連携のみでなく産学連携の枠組みの中でも、最先端の技術に触れることができ、素晴らしい経験を積むことが出来たのではないかと思います。これからもこの経験を生かして、様々な分野で大きく活躍して欲しいです」と述べ、プログラムに参加した生徒達の努力を称賛しました。

このプロジェクトが、若い世代の科学技術への関心を高めるとともに、実践的な学びを提供する場として機能し、参加した高校生らが、今後さらに活躍してくれることを期待します。



JAXAに引き渡されたフライトモデルと
同型のプロトフライトモデル

高大連携実衛星プログラム「ぎふハイスクールサット（GHS）」の
フライトモデルの引き渡しが完了



記念写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/12/25	岐阜	4工業高の小型人工衛星 JAXAに引き渡し 岐阜大学長に報告 ～「ぎふハイスクールサット（GHS）プロジェクト」、吉田和弘 学長、工学部4年 山下雄碁さん、大学院 鈴木裕翔さん～

第90回医学教育セミナーとワークショップを開催

【概要】

岐阜大学医学教育開発研究センター（MEDC）は、1月23日（木）・24日（金）に、第90回医学教育セミナーとワークショップを開催しました。今回はWebinar、4つの「MEDTaaalk」および6つのワークショップを実施し、講師を含む総勢227名が参加しました。

「MEDTaaalk」は、テーマに関する講師のミニプレゼンテーションと、それに続く講師とナビゲーターの対話の様子を視聴することができる企画です。本企画は、今まで学んだことのないような幅広い分野の知見に触れる機会を提供し、医療者教育の裾野を広げることを目的としています。また、視聴中に参加者が気になったことなどは、Q&A機能を活用して質問しながら学ぶことができます。

今回の「MEDTaaalk」では以下の4テーマを取り上げ、参加者からは「膨大な情報が要点を押さえてまとめられており、大変分かりやすかった」「自身の授業にも活かせるような内容だった」といった感想が寄せられました。

- ・カンファレンスの観察社会学-個別指導と全体的教育の二律背反等を事例として
- ・コミュニケーションを測ること、評価すること
- ・医療者と患者のコミュニケーションを異文化コミュニケーションの視点で考えてみよう
- ・臨床研究コーディネーター（Clinical Research Coordinator：CRC）のレジリエンス

Webinarでは、MEDCの藤崎和彦教授が「科学史・科学論の視点から見た医学史・医学概論」をテーマに講演を行いました。藤崎教授は2012年から岐阜大学の全学共通教育「人文科学・科学論」の授業を担当しており、本講演では授業内容のエッセンスを紹介しました。参加者からは「医学教育の深さを感じた」「フィードバックの概念が変化した」などの意見が寄せられました。

ワークショップでは、「効率よく臨床医学を学ぶカリキュラムの構築」や「障害のある医療系学生の社会的バリアを考える」など、医学教育の多様な課題に取り組みました。MEDCは、医学教育共同利用拠点として、我が国の医療者教育の普及・発展・向上を目指し、「医学教育セミナーとワークショップ」を継続的に開催しています。次回の第91回医学教育セミナーとワークショップは、2025年5月29日（木）～31日（土）に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催予定です。また、5月29日（木）・30日（金）には「第26回国公私立大学医学部・歯学部教務事務研修」も併催します。参加申し込みは4月上旬よりMEDCホームページにて受け付ける予定です。



総合プレゼンター MEDC藤崎和彦教授

第90回医学教育セミナーとワークショップを開催



MEDTaalk1 : (左)摂南大学 榎田美雄教授、(右)名古屋市立大学 今福輪太郎准教授



MEDTaalk2 : (左)帝京大学 石川ひろの教授、(右)MEDC 野村理併任講師



MEDTaalk3 : (左)立教大学 灘光洋子教授、(右)MEDC 早川佳穂特任助教



MEDTaalk4 : (左)東京慈恵会医科大学 野呂幾久子教授、(右)岐阜大学 高橋美裕希特任准教授

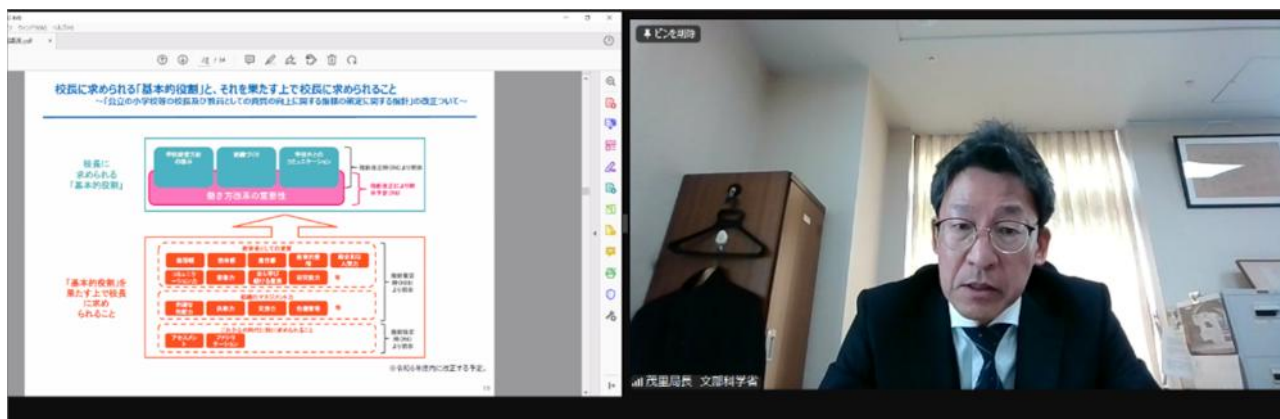
令和6年度岐阜大学シンポジウム 「ポジティブな学校文化をつくるエビデンスの活用」を開催

【概要】

2025年2月3日（月）、岐阜大学シンポジウム「ポジティブな学校文化をつくるエビデンスの活用」をオンラインで開催しました。本シンポジウムには、全国の大学関係者、教育委員会や学校関係者、市民の方々など264名が参加しました。

今日、不登校やいじめ、特別な支援を必要とする子どもの増加を受けて、管理職が教職員と協働して、多様な子どもが安心して学べるポジティブな学校文化を構築することが緊喫の課題となっています。その課題を解決するために、全ての子どものよさ（望ましい行動）に注目し、それを引き出し、認め合う仕組みをつくるスクールワイドPBS（ポジティブ行動支援）注1）のエビデンスが注目されています。本シンポジウムでは、管理職がエビデンスを学び活用する研修開発事業報告を行い、ポジティブな学校文化をつくるエビデンスの活用について考えました。

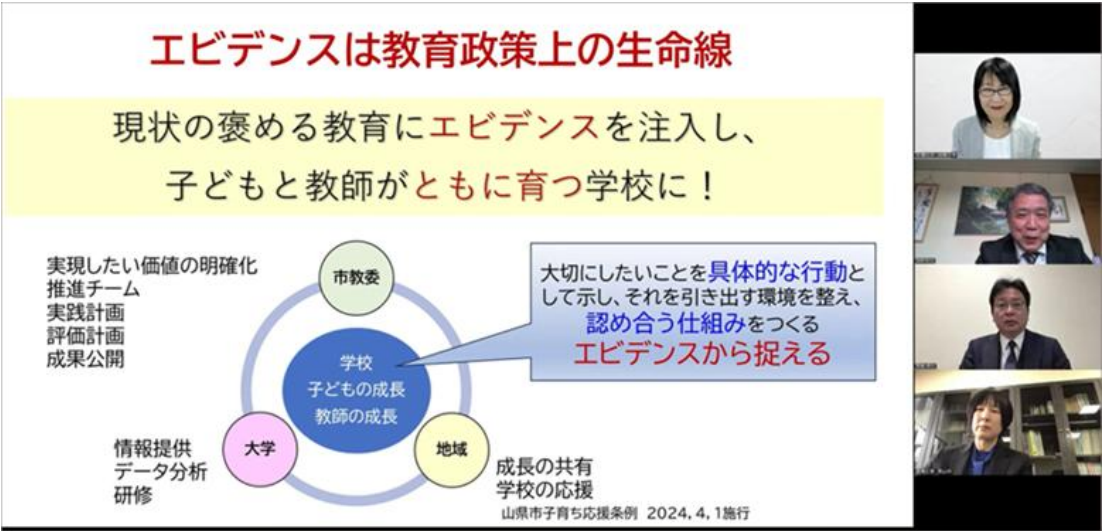
第1部では、文部科学省総合教育政策局長の茂里毅氏から「管理職研修の高度化と教職大学院の役割」について、今日の公教育の在り方や課題を踏まえて、子どもの主体的な学びを支える教師、それを支える管理職に関する講演がありました。参加者から、「教育環境整備の課題を含み、あらためて学校教育の在り方、学校の教育力を高める管理職の在り方について、学び、考えた」などの感想が多く寄せられました。



第1部基調講演の様子 文部科学省総合教育政策局長の茂里毅氏

第2部の事業報告では、本学教職大学院が現職の校長先生とともに開発した「ポジティブな学校文化をつくるエビデンスを活用する管理職研修」について報告が行われました。校長先生からは「自校の子どもや教職員の状況を踏まえて、取り組み方針を明示し、進めた結果、子どもの主体的な取り組みが増え、教職員が褒め上手になり、学校が楽しい生徒が増えた」などの報告がありました。また、教育長からは「エビデンスの教育政策上の価値を明確にし、管理職の学びを支える基盤をつくることで、子どもと教師が幸せになる」などの報告がありました。管理職研修として、エビデンスとともに、その教育的価値を認識し、学校経営の中でどのように進めるかを各自が明らかにする研修内容が重要であること、エビデンスを入手し、活用する体制をつくる必要があることが明らかにされました。

令和6年度岐阜大学シンポジウム
「ポジティブな学校文化をつくるエビデンスの活用」を開催



第2部事業報告の様子
(上から) 岐阜大学教職大学院教授 平澤紀子、山県市教育長 服部和也氏、
美山小学校校長 早川秀樹氏、美山中学校校長 高橋広美氏

第3部の参加者交流では、基調講演や事業報告を受けて、参加者同士で意見交換を行いました。本シンポジウムを通じて、「学校が既に取り組んでいることをエビデンスの視点から可視化することが重要である」「校長が教職員や子どもに方針を伝え、進めることが学校の教育力を向上させる」などの意見交換がなされ、多くの学びを得る機会となりました。

本学は今後もさまざまな教育機関と連携し、学校教育の充実に向けた活動を展開していきます。

注1) スクールワイドPBS :
全ての子どもを対象として、学校を安全で効果的な学習環境とするために必要な社会的文化や個別の行動支援を確立するシステムアプローチで、学校組織がエビデンスを活用する枠組みです (Sugai & Horner, 2009)。教育制度(IDEA)に位置づけた米国を中心として世界的に拡大し、日本でも徳島県や宮崎県、山県市では教育振興基本計画に位置づけて取り組んでいます。スクールワイドPBSの中心的な要素は、子どもの良さに注目し、それを引き出す環境を整え、認め合う仕組みをつくるものであり、それにより子どもの社会的行動や学業、学校文化が向上し、問題行動が減少することが明らかにされています。わが国の学校教育への親和性も高く、安心して学べる学校づくりに資することが明らかにされています。

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/2/12	岐阜	罰則より称賛で教育 PBSシンポ 山県市教委が報告 ～令和6年度岐阜大学シンポジウム「ポジティブな学校文化をつくるエビデンスの活用」～

「地域医療セミナーin下呂」を開催

【概要】

2025年2月8日・9日の2日間、下呂市と下呂市医師会の主催で「地域医療セミナーin下呂」が開催されました。本学からは1年生から4年生までの医学生18名が参加しました。本セミナーは、地域医療について学び、実際の医療現場を体験し、現役の医師との交流を通じて地域医療の現状を深く理解することを目的としています。

初日の午前には、まず下呂市における医療状況について説明がありました。続いて、本学医学部附属地域医療医学センター長の牛越博昭教授が「地域医療のミライ」というテーマで講演を行いました。講演では、新たなカリキュラムの紹介や国からも示されている2040年を見据えた医療人育成など、地域医療の重要性や将来の展望について詳しく説明しました。午後からは、岐阜県立下呂温泉病院に移動し、院内見学や医師との意見交換が行われました。その後、宿泊先に移動し、飛騨川温泉しみずの湯で交流会が開催されました。交流会には山内市長や下呂市医師会の小林会長をはじめ、医師会の先生方も参加され、参加学生は先輩医師から貴重なお話を伺うことができました。

2日目の午前には下呂市立小坂診療所、午後には下呂市立金山病院を訪問し、院内見学と現地の医師との交流会が行われました。交流会では、地域医療の現場で医師が直面する課題やその課題に対して日々どのように対応しているのかなどを学びました。

本セミナーに参加した医学生からは、「同じ岐阜県内でも医療事情が異なることが、直接、現場の先生方や事務職員の方から話を聞いてよくわかりました」などの声が挙がり、地域医療に対する理解を深める良い機会となりました。

本学は今後も、地域医療の現場に携わる方々の協力を得ながら、実践的な学びの機会を提供し、学生の成長を支援していきます。

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/2/9	読売	医学生向けに地域医療紹介 下呂でセミナー ～医学部 牛越博昭教授、医学部4年 細江悠仁さん～

岐阜大学教育学部と三重大学教育学部が 連携・協力に関する協定を締結

【概要】

令和7年2月14日（金）、三重大学教育学部多目的ホールにおいて、岐阜大学教育学部と三重大学教育学部は連携・協力に関する協定を締結しました。

この協定は、両大学教育学部が教職課程を含む教育プログラムの拡充と質の向上を図り、地域社会の発展に貢献し、地域の子どもたちの学びを支えるために、連携・協力することを目的としています。

締結式では、両教育学部長が協定書に署名を行い、山田雅博岐阜大学教育学部長から「三重大学教育学部とは令和4年度から協議を重ねてきた。その集大成として協定を締結することができ、心から嬉しく思っています。今後、三重大学教育学部は三重県において、岐阜大学教育学部は岐阜県において、それぞれ学生の学びを充実させ、互いに力を合わせ、手を取り合って歩んでいきたい」との挨拶がありました。

続いて、伊藤信成三重大学教育学部長から「やっと署名まで来ることが出来た。これから、共に手を取り合って超えていかなければならない課題が多くある。岐阜県の教育、三重県の教育を共に支えていく組織となっていけるよう、共通の強みを活かし、教育がさらに深まるような連携をしていきたい」との抱負が述べられました。

岐阜大学教育学部と三重大学教育学部は今後、教育分野における連携・協力を深め、それぞれの理念や特色を活かし、地域の教育の一層の充実を図っていきます。



協定書への署名後、手を取り合う
山田雅博岐阜大学教育学部長(左)と
伊藤信成三重大学教育学部長(右)



両大学出席者による集合写真

令和6年度学位記授与式を執行

【概要】

本学は、令和7年3月25日（火）、岐阜市民会館にて令和6年度学位記授与式を執り行いました。

式典では、学部学生1,254人、大学院学生578人の卒業生・修了生に向けて、吉田学長が「皆さんは岐阜大学での学びを通じ、恩師や学友と議論を重ね、社会課題の解決やSociety5.0の実現に向けて努力されてきました。コロナ禍を乗り越え、世界的な課題に直面しながら培ったレジリエンスを生かし、前途洋々たる未来に向かって邁進されることと確信しています」と告辞を述べました。

また、卒業生代表の謝辞では、応用生物科学部の西脇那月さんが「新型コロナウイルスの世界的な流行により、思い描いた理想の大学生活とは異なる日々もありましたが、多くの出会いと学びを通じて視野を広げ、成長することができました。これからも岐阜大学での経験を糧に、一步ずつ前へ進んでいきます」と力強く語りました。

さらに、在学期間中において、極めて優秀な学業成績を挙げ、高い評価を受けた学生18人が吉田学長から表彰されました。



管弦楽団演奏



学位記授与式の様子



学長告辞



謝辞を述べる応用生物科学部 西脇さん

令和6年度学位記授与式を執行



愛唱歌合唱



会場の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/3/26	岐阜	学びを糧に 未来へ前進 岐阜大卒業式で決意 ～吉田和弘学長、応用生物科学部 西脇那月さん、共同獣医学専攻 本間健志さん～
2025/3/26	中日	「経験と学び糧に前進」決意 岐阜大 学位記授与式 ～吉田和弘学長、応用生物科学部 西脇那月さん、共同獣医学専攻 本間健志さん～